

経営と暮らしのあらかると

災害対策

第4回 「思い」を新たにする防災訓練

日本の企業によく見受けられる特徴として、一生懸命BCP作成に取り組む一方で、いざ災害が起きたときに計画を機能させるために必要な「防災訓練」が儀式化してしまっていることがあります。万全な防災対策・防災計画を作っておきながら、希薄な危機意識によってBCPの本来の意義を喪失させてしまうこの状態を、筆者は「災害対策の副作用」や「企画倒れの災害対策」と呼んでいます。

そうした「副作用」が起きてしまう背景には、BCPを「災害発生時に読み、それに従って対応すればいいもの」として策定する心理があるようです。ですがBCPはあくまで危機時の対応を普段から訓練しておくための参考書のようなものです。参考書をもとにした防災訓練の積み重ねがあつて、初めてBC

Pが正しく機能するのです。前回ご紹介したBCP(事業継続計画)に限らず、あらゆる計画は単にアクションプランを作つて制度や書類を整えただけでは「仏作つて魂入れず」というように無意味でしかありません。災害対策でも大切なことは、対策・制度・計画書類に「命を大切に。経営を大切に。」という「思い」があるかどうかです。そこで今回は、災害対策で大切な「思い」を新たにするための防災訓練について触れましょう。

災害対策の副作用

Pが正しく機能するのです。

訓練がBCPを磨き上げる

BCPを用いた防災訓練で、これもよく見受けられるパターンとして、シナリオの読み合わせを行うかのような棒読みの訓練(筆者は発声練習くらいに思ふかならないと思つています)や、非常階段をタラタラと歩いて避難するだけの訓練など、実効性に乏しい訓練を行っている企業が少なからずあります。

BCPは、初めは6〜7割の出来でも十分で、さまざまな災害で起こり得る緊迫した場面を想定した訓練を行い、訓練を通じて出てきた課題を克服するよう、少しずつでも磨き続けることが重要なのです。

防災訓練の参考例

では具体的にどんな防災訓練をすれば良いのでしょうか。

そもそもBCPは何らかの原因で事業継続困難になった際に、臨機応変に対応できるよう備えておくものです。想定された災害に想定された対応をタラタラこなすだけの訓練は効果的とは言えません。そこでお勧めするのは、筆者自身が開発した「ハプニング・カード」を使った方法です。さまざまな危機事態が書かれたカードをシャッフルして引き、対策を即興で検討・訓練するもので、次に何が起こるか分からない、シナリオなき防

災訓練をやるわけです。

この「ハプニング・カード・シャッフル式訓練」はさまざまな危機事態への対応能力を培えます。ただし指導する側もされる側も柔軟な対応を求められたり専門的知識やスキルが求められたりと、訓練としてレベルの高いものです。そこで、この方法が難しいという場合は、私は「防災訓練+バーベキュー」をお勧めしています。バーベキューは普段は楽しいレクリエーションですが、その際に身に付けるスキルは、危機時の炊き出しや共同作業、チームビルディングの訓練としてうつつの内容が含まれています。訓練+懇親の場づくりとして、バーベキューを利用されてみてはいかがでしょうか。

また、連載第2回で紹介しました帰宅困難者対策と併せて、実際に会社で水・電気・ガスなどが止まった設定で、「晩寝泊まりしてみる」という「お泊まり訓練」も良いでしょう。トイレが普段通り使えない設定で非常用トイレを使用したり、男女で別の寝泊まりエリアを確保したりなど、普段見えてこない災害対策のポイントに直面して良い訓練になります。訓練を楽しみながら、災害時に役立つスキルや知識を定期的に少しずつでも習得することで、危機に強く人にやさしい職場づくりが進むことを祈っております。

(つづく)

日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長 戸村 智恵

